

【第 1 期】

イベント・出来事関連記事

IDÉE R-project Press Invitation

プレス発表会のご案内



©2004 IDÉE R-project co., Ltd. All Rights Reserved.

会社名

お名前

発送者

学校の教室がデザイナーズ・ビレッジに。 IDÉE R-projectの手による「廃校跡地再生プロジェクト」

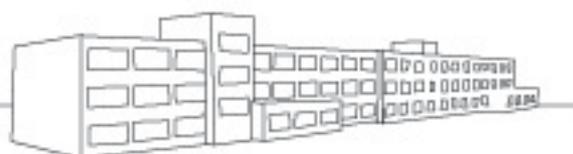
少子化の影響で増えつつある小中学校の廃校、そんな例のひとつに挙げられるのが今年3月に廃校となった世田谷の旧池尻中学校跡地。その校舎を区より借りうけ、IDÉE R-projectが“ものづくり”と“デザイン”を切り口としたまったく新しいクリエイターズ・コミュニティ世田谷ものづくり学校を誕生させます。

映画や映像、建築やプロダクトなどの世界で活躍するクリエイターに教室を解放し、この分野の創業支援を促進。さらに、子どもから大人までが参加できるものづくりワークショップの開催など、地域に根ざしたプログラムを実施しながら新しいコミュニティの形成をはかります。施設内のギャラリーやミニシアター、工房、カフェなどでは企画展やイベントが随時開催され、ちょっとしたデザインセンターとしても機能する予定です。

民間ならではの自由な発想でパブリックを考える——これが我々の新しいチャレンジです。

このプロジェクトについて下記のとおりプレス発表会を開催いたします。
ご多忙のことと存じますが、ぜひご参加ください。

イデアールプロジェクト株式会社
代表取締役社長 黒崎輝男



日時	2004年8月2日(月) 12:30(開場) 13:00-14:00
会場	昭和女子大学 グリーンホール *別紙地図をご参照ください。 東京都世田谷区太子堂1-7(当日連絡先:090-1737-2014) 当日は冷たいお飲み物をご用意して、皆様をお待ちしております。
お問い合わせ先	イデアールプロジェクト株式会社/IID事務局 担当:川淵、高野 TEL:03-5785-0207 E-mail:contact@r-school.net http://www.r-school.net

お手数ですが、別紙にて出欠のお返事を7/30(金)までに FAX 03-5785-0208 宛にご返信ください。



せたがや

区のおしらせ

区のホームページ <http://www.city.setagaya.tokyo.jp/> 災害時の情報はFMラジオ83.4MHz(エフエム世田谷)

新しい手法で運営します

今年3月に統合された旧池尻中学校を活用して「世田谷ものづくり学校 IKEJIRI INSTITUTE OF DESIGN (IID)」が10月1日から開校します。ここでは「学び・雇用・産業」の再生といった視点から、民間の活力を生かした新しい手法により次の事業に取り組み、新たなコミュニティづくりや地域の活性化をめざします。

- ①世田谷らしい新たな産業と観光の拠点を育てます
- ②創業に関する技術的な支援を行うとともに、創業の場を提供します
- ③ものづくり体験と交流の場を提供します

事業全体の運営は、イデアールプロジェクト(株)が行います。代表の黒崎さんと、映画分野のスーパーバイザーを務める李さんのお二人に世田谷ものづくり学校の「これから」について語っていただきました。 閩工業・雇用促進課 ☎3411-6662

IDÉE R-PROJECT



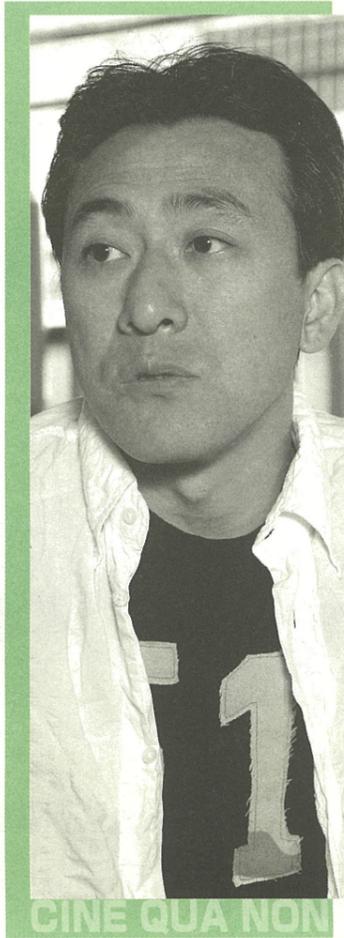
世代を超えて集える

世田谷ものづくり学校

10月1日 オープン

IKEJIRI INSTITUTE OF DESIGN

新しいコミュニティの場に!



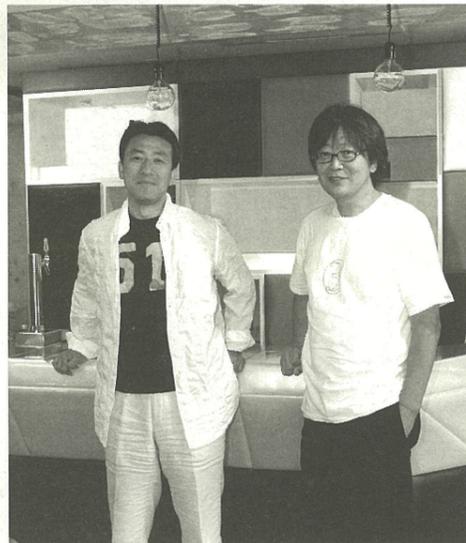
●統合した中学校を「世田谷ものづくり学校」としてよみがえらせる意義は何ですか?

黒 勉強すること遊ぶことが一体になればいいと思います。ふと考えてみると中学校時代に本当にやりたかったことが今、大切なんですね。子どものころ何を考えたのか、何をしたいと思ったのか、ということを考えることが今の日本で欠落しているのではないかと思います。中学校を改修して事務所にするのはなくて、中学校のイメージをできるだけ残しておく。するとすに座って黒板を眺めていると、いろいろ思い出さずかもしれない。現実はずいぶん違うけど、もう一回中学生に戻って違うことを学んでみようとか、考えてみようとかできる場所は今の日本にありません。「世田谷ものづくり学校」はそういう場所になり得るのではないかと思います。

李 映画の話で言うと、映画の専門的知識を学ぶ学校を出ているから有名な監督かというところじゃない。まったく違う体験をした人たちが映画の世界でキーパーソンとして活躍しています。ただ、違う職業を持ちながら映画の世界に入っていくというの、今の日本では難しい。ものづくり学校は大人の学校とお聞きして小気味よく感じました。大人が楽しみながら学べる、そこが素晴らしいと思います。そこから本当のプロが生まれればいいですね。

●「世田谷ものづくり学校」から才能を羽ばたかせるための取り組みは何ですか?

黒 テクニクを学ぶことだけでは、学校は成り立たないと思います。「デザイン学校を卒業していませんが会社に入れますか?」とよく聞かれるんですが、デザ



LEE BONK-OU 李 鳳宇 さん

シネカノン代表。昭和35年京都府生まれ。平成元年に映画配給会社「シネカノン」を設立。4年には初プロデュースの「月はどっちに出ている」が映画賞を総なめに。以降、「シュリ」に代表される韓国映画の配給や「ゲロッパ」などの日本作品のプロデュースを手掛け、ヒットを飛ばしている。

TERUO KUROSAKI 黒崎 輝男 さん

イデアールプロジェクト(株)代表。昭和24年生まれ。ヨーロッパのアンティーク家具の輸入販売を経て57年以降「IDÉE」としてオリジナル家具の企画販売をスタートし、国内外のデザイナーのプロデュースに力を注ぐ。現在は家具だけでなく、様々な分野で幅広い展開を行っている。

イン学校を出てコンピューターグラフィックができて、家具の図面を書くことができるからデザイナーになれるのか?そういうこと自体おかしいんじゃないかと思いませんか。今の学校では、技術を教えますよね。しかし、技術を教わっても次から次へと技術革新はある訳ですし、基本は覚えなければいけません。その技術を何に使うかということをおもな考えないですね。

李 例え世田谷区の映画を作るとします。世田谷区をよく知っている区内在住の人が撮るといいと思いがちですが、フランス人が世田谷区の生活を撮った方がおもしろいかもかもしれません。世田谷区の人だけが満足する映画ではなく、いろいろな人が様々な角度から見ておもしろいと思ってくれるからいいですね。

黒 それをどう見るかというのは、いろんな視点があった方がいいし、いろんな価値観が混在すると映画に限らず文化は発達しますね。そういう意味では、他者の視点を交えて映画を学ぶとか、映画を作るといことが大事だと思うんです。

黒 家具デザインや空間デザインなども、どこの事務所で何年働いて資格はどうでとかでできるものじゃないと思う。そう考えると真実を求めていく、創っていくというふうなことを「世田谷ものづくり学校」でできたらいいと思います。そんなこと夢みたいだと言われるかもしれないけど、実はその方が成功への近道だと思うんですね。

●区民とのコミュニケーションから、ものづくりの楽しさを次世代に引き継いでいくことにはいかがですか?

黒 仕事の中で遊ぶことが多いし、学ぶからこそ楽しい。「仕事・遊ぶ・学ぶ」が一体となつてうまく有機的に広げていけて、「世田谷ものづくり学校」で「こんなおもしろいことはない」と言われるようなことをやっていこうと思っています。

李 今まではクリエイター同士が固まっていた地域のコミュニティ社会とはすごく離れていました。けれど、一緒にやるのが重要だと思えます。隣のおじさんたちがこうやって建物を作つて、こういうふうに一生涯懸命考えている。古い家具を直してきれいな家具にしているんだ、というふうなことを知るのすごくいい勉強になると思う。子どもたちが将来サッカー選手になりたいと思うのと同じように、「ものづくり」にあこがれを抱いてくれるとうれしいですね。僕たちとしてはデザイナーや映画のファンタジスタ(※)をそこから生み出せれば一番いいと思います。

黒 その言葉いいですね、ファンタジスタ。黒 サッカーの世界にもうまい選手や点を取る選手はたくさんいます。けれど、うまくいだけではない、その場の雰囲気を変えられる、人の心に深く印象を与えられる人はそんなにいない。たつた一本しか映画を作らなかつた、それが映画史に残る作品であるならば、その人は映画のファンタジスタです。そんな人物を生み出せれば最高ですね。

(※)サッカーの本場イタリアでは、創造性豊かなプレーで観る者を魅了する選手のことをファンタジスタと言います。